

平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q&A

<理科に関すること>

問 1 高等学校理科の改訂のポイントは何ですか。

(答)

理科で育成を目指す資質・能力を育成する観点から、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象について科学的に探究する学習活動を充実しました。また、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視しています。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（理科編）第 1 章第 2 節 2

問 2 科学的に探究する学習活動について、基礎を付した科目と基礎を付していない科目で配慮すべき点は何ですか。

(答)

基礎を付した科目では、観察、実験などを行い、探究の過程を踏まえた学習活動を行うようにすることが求められます。その際、学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるようにします。また、基礎を付していない科目では、基礎を付した科目と同様に取り扱うことに加え、探究の全ての学習過程を経験できるようにする必要があります。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（理科編）第 2 章

問 3 「生物基礎」及び「生物」の内容の取扱いにおける「用語」に関する規定の趣旨について教えてください。

(答)

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申の中で、教材の整備・充実について、「生物」などでは、教材で扱われる用語が膨大となっていることが指摘される中で、科目のねらいを実現するため、主要な概念につながる重要用語を中心に整理するとともに、「見方・考え方」を働かせて考察・構想させるために必要な教材とすることが求められる。」とされたことを受けて、「生物基礎」及び「生物」の内容の取扱いにおいて、それぞれの科目で扱う用語について規定しています。この規定は、学習内容を削減することを意味するものではなく、生物や生物現象、生物学に関する基本的な概念や原理・法則を理解させるためには、用語の意味を

単純に数多く学習させることではなく、主要な概念を理解させることに指導の重点を置くことが重要であることから規定したものです。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（理科編）第 2 章第 6 節 4，第 7 節 4